

令和7年度大阪府がん対策推進委員会第1回小児・AYA世代のがん対策部会
議事概要

1 日 時：令和8年2月26日（木）16時～18時

2 場 所：大阪府立男女共同参画・青少年センター 4階 大会議室3

3 報告事項：

- (1) 大阪府がん患者等妊よう性温存治療費等助成事業について
- (2) 第4期大阪府がん対策推進計画の進捗管理について
- (3) その他

5 委員からの意見要旨

- 大阪府がん患者等妊よう性温存治療費等助成事業について

(主な意見)

- ・初回の凍結保存費用以外の凍結保存の維持に係る費用の助成について、東京都では助成費用の月払いに対する上限を導入されている。助成対象となる期間が1日だけであったとしても上限額の公費支出が発生する可能性があることから、大阪府においても月払いの対応について検討いただきたい。
- ・新たな制度を設けることと同様に制度を必要とされる方に知っていただくことは重要であるため、対象者がどの程度制度を認知しているのかを今後把握していく必要があると思う。
- ・凍結保存の維持は人によっては複数回に及ぶため、申請の都度医師の書類作成を求めると助成金申請に係る費用が嵩むことになるため、申請者の負担軽減の観点から2回目以降の申請については証明書類を減らすこと等についても検討いただきたい。
- ・事業周知にあたっては、生殖医療機関に加え、原疾患医療機関に対しても周知が必要。
- ・初回の凍結保存費用以外の凍結保存の維持に係る費用の助成について、大阪府では精子の凍結保存を実施された方の約7、8割が妊よう性温存治療費等の助成を受けずに保存している状況であるため、対象者を「妊よう性温存治療費助成を受けた者」に限るのではなく、「妊よう性温存治療費助成の助成要件を満たす者」も含めていただきたい。
- ・凍結保存日が令和7年4月1日以降の者が助成対象となると、それ以前の方は制度の活用ができずに不公平が生じることから、過去に凍結を行った人については遡り申請を認めていただきたい。

- 第4期大阪府がん対策推進計画の進捗管理について

(主な意見)

- ・指定医療機関における妊よう性温存治療の実施件数に関連して、初回の凍結保存費用以外の凍結保存の維持に係る費用の助成制度を設計するにあたっては、男女別の助成金申請割合も参考とされたい。
- ・小児・AYA 世代のがん患者支援事業に関して、遠隔コミュニケーション環境整備支援事業の対象に府立高等学校を含めることができれば、より現場の実態に即した制度となると思う。
- ・患者ニーズ調査の実施にあたって、項目を設定する際は患者や医療機関等の意見を取り入れていただきたい。
- ・長期フォローアップ支援事業に関して実施件数が少ないことが気になる。今後の対応のためにワーキングの開催や医療機関へのヒアリング等の実施について検討する必要があると思う。

○その他

(主な意見)

- ・高額療養費制度の改正に関して、ワーキングプアの方が、がんになり患した場合に生活保護となってしまう事案が一定数出てくるように思われるため、次回以降の患者ニーズ調査に「がんり患をきっかけに生活保護を受給するようになった」という項目の追加を検討いただきたい。
- ・AYA 世代のがん患者の特徴としてご家族が働き世代ということが挙げられるため、病院と在宅以外の療養場所としての選択肢を広げられるような取組みについても検討いただきたい。